

# 実践的利用ガイド・トラブルシューティング集

---

## 目次

---

### 第1章：アプリ利用のベストプラクティス

- 1-1. 意図を正確に伝える入力のコツ
- 1-2. AIの回答をコントロールする方法
- 1-3. 生成結果を改善するためのフィードバック

### 第2章：よくあるトラブルと解決策

- 2-1. 「APIキーが正しくありません」と表示される
- 2-2. 思ったような結果が生成されない
- 2-3. ワークフローが途中で停止してしまう
- 2-4. 画像が生成されない、または品質が低い
- 2-5. サーバー版DIFYにアクセスできない

### 第3章：WriteGenius Pro 特有のトラブルシューティング

- 3-1. SEO分析の精度が低い
- 3-2. 記事の品質にばらつきがある
- 3-3. 参考URLを読み込んでくれない

### 第4章：YouTube Script Pro 特有のトラブルシューティング

- 4-1. 台本が単調で面白くない
- 4-2. サムネイル画像のクオリティが低い

- 4-3. 企画のアイデアがありきたり

## 第5章：Image Master AI 特有のトラブルシューティング

- 5-1. AIの質問が的を射ていない
- 5-2. 同じような画像ばかり生成される
- 5-3. 修正を依頼しても、うまく反映されない

## 第1章：アプリ利用のベストプラクティス

---

### 1-1. 意図を正確に伝える入力のコツ

- **具体的かつ明確に：**「面白い記事」ではなく、「20代男性向けの、最新ガジェットに関する面白い記事」のように、具体的に指示しましょう。
- **背景情報を提供する：**なぜそれが必要なのか、どんな目的で使うのか、といった背景情報を伝えることで、AIは意図をより深く理解します。
- **箇条書きを活用する：**複数の条件を伝えたい場合は、箇条書きで整理すると、AIが解釈しやすくなります。

### 1-2. AIの回答をコントロールする方法

- **役割を与える：**「あなたはプロの編集者です」「あなたは優秀なマーケターです」といった役割を与えることで、AIの思考を特定の方向に誘導できます。
- **出力形式を指定する：**「以下の形式で出力してください：【タイトル】【本文】【まとめ】」のように、出力形式を厳密に指定することで、望む結果を得やすくなります。
- **制約条件を加える：**「専門用語は使わないでください」「1000字以内でまとめてください」といった制約を加えることで、回答の範囲をコントロールできます。

### 1-3. 生成結果を改善するためのフィードバック

- **良かった点を褒める：**「この部分は素晴らしいです」と具体的に褒めることで、AIは良い点を学習します。
- **悪かった点を具体的に指摘する：**「この部分は抽象的すぎるので、もっと具体的にしてください」と、修正してほしい点を明確に伝えましょう。

- **修正案を提示する：**「この部分を、〇〇という表現に変えてください」と、具体的な修正案を提示するのも有効です。

## 第2章：よくあるトラブルと解決策

---

### 2-1. 「APIキーが正しくありません」と表示される

- **原因①：APIキーの入力ミス**
- **解決策：**コピー＆ペーストの際に、前後に余分なスペースが入っていないか確認してください。
- **原因②：APIキーの有効期限切れ**
- **解決策：**各AIサービスの公式サイトで、APIキーが有効かどうか確認してください。
- **原因③：支払い情報の未登録**
- **解決策：**OpenAIなど、一部のサービスでは、支払い情報を登録しないとAPIが利用できません。

### 2-2. 思ったような結果が生成されない

- **原因①：プロンプトが曖昧**
- **解決策：**第1章を参考に、より具体的で明確なプロンプトに修正してください。
- **原因②：AIモデルの選択ミス**
- **解決策：**用途に合ったAIモデルを選択してください。一般的に、高性能なモデルほど、意図を汲み取る能力が高くなります。
- **原因③：コンテキスト不足**
- **解決策：**必要な背景情報や参考資料を、ナレッジベースなどを活用してAIに提供してください。

### 2-3. ワークフローが途中で停止してしまう

- **原因①：APIのタイムアウト**
- **解決策：**LLMノードのタイムアウト設定を、長めに設定してください（例：300秒）。
- **原因②：メモリ不足（サーバー版）**

- **解決策：** サーバーのメモリを増設するか、より高性能なプランに変更してください。
- **原因③： ノードの接続ミス**
- **解決策：** 各ノードが正しく接続されているか、矢印の流れを確認してください。

## 2-4. 画像が生成されない、または品質が低い

- **原因①： プロンプトが不適切**
- **解決策：** 画像生成AIは、英語のプロンプトの方が高品質な画像を生成する傾向があります。Image Master AIのように、プロンプトを自動で最適化するアプリの利用を推奨します。
- **原因②： ネガティブプロンプトの未設定**
- **解決策：** 「低品質」「不鮮明」といった、生成してほしくない要素をネガティブプロンプトに設定することで、品質が向上します。

## 2-5. サーバー版DIFYにアクセスできない

- **原因①： ファイアウォールの設定**
- **解決策：** サーバーのファイアウォールで、DIFYが使用するポート（デフォルトは80番）が開放されているか確認してください。
- **原因②： Dockerコンテナの停止**
- **解決策：** サーバーにSSHで接続し、`docker-compose ps` コマンドで、DIFYのコンテナが正常に動作しているか確認してください。

# 第3章： WriteGenius Pro 特有のトラブルシューティング

---

## 3-1. SEO分析の精度が低い

- **原因：** 検索結果のノイズが多い（広告、無関係なサイトなど）
- **解決策：** Google検索ノードのプロンプトに、「広告サイトやSNSを除外してください」といった指示を追加することで、分析の精度が向上します。

### 3-2. 記事の品質にばらつきがある

- **原因:** AIの創造性が高すぎる
- **解決策:** 各LLMノードの「temperature」パラメータを低めに設定する（例：0.5）ことで、より安定的で予測可能な文章を生成するようになります。

### 3-3. 参考URLを読み込んでくれない

- **原因:** Webサイトの構造が複雑で、AIが内容を正しく抽出できない
- **解決策:** 参考URLの内容を一度テキストファイルにコピーし、ナレッジベースにアップロードしてから、それを読み込ませるようにワークフローを変更することで、確実に情報を伝えることができます。

## 第4章：YouTube Script Pro 特有のトラブルシューティング

---

### 4-1. 台本が単調で面白くない

- **原因:** AIが優等生的な回答しかしない
- **解決策:** 台本執筆ノードのプロンプトに、「視聴者が驚くような、意外な展開を加えてください」「人気YouTuberの〇〇さんのような、面白い語り口をお願いします」といった、具体的なキャラクター設定や演出の指示を追加することで、より魅力的な台本になります。

### 4-2. サムネイル画像のクオリティが低い

- **原因:** 台本の内容を要約しただけの、抽象的なプロンプトになっている
- **解決策:** サムネイル画像生成ノードの前に、専用のプロンプト生成ノードを追加します。台本の内容から、最もインパクトのあるシーンを抽出し、「{シーンの詳細}を、{画風}で、{感情}が伝わるように描いてください」といった、具体的なプロンプトを生成させることで、クオリティが飛躍的に向上します。

### 4-3. 企画のアイデアがありきたり

- **原因:** 検索結果に基づいた、ありきたりな企画しか出てこない

- **解決策：** 企画立案ノードのプロンプトに、「常識を覆すような、斬新な切り口を考えてください」「もし〇〇が〇〇だったら、という仮説に基づいた企画を提案してください」といった、思考の枠を広げる指示を追加することで、ユニークな企画が生まれやすくなります。

## 第5章：Image Master AI 特有のトラブルシューティング

---

### 5-1. AIの質問が的を射ていない

- **原因：** ユーザーの最初の入力が曖昧すぎる
- **解決策：** アプリの開始時に、「どんな画像のジャンル（例：人物、風景、アニメ）に興味がありますか？」といった選択肢を提示し、ユーザーの意図を絞り込むことで、AIがより適切な質問を生成できるようになります。

### 5-2. 同じような画像ばかり生成される

- **原因：** プロンプトの多様性が不足している
- **解決策：** プロンプト構築ノードのプロンプトに、「ランダムな要素を加えてください」「意外な組み合わせを試してください」といった指示を追加することで、生成される画像のバリエーションが増えます。

### 5-3. 修正を依頼しても、うまく反映されない

- **原因：** AIが前の対話履歴に固執している
- **解決策：** 「これまでの指示は一旦忘れて、全く新しい視点で修正してください」といった、コンテキストをリセットするような指示を与えることで、AIが新しい提案をしやすくなります。